

成果指標				
成果指標	支給実件数			
指標設定の考え方	支給件数の増加が、障がい者の生活向上につながるため。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標28年度
目標	60	60	60	60
実績	47	50	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	補装具は、その人にとっては体の一部であり、なくてはならないものである。このため、作成業者及び担当職員の事務遂行を速め、一日も早く届けることができるようにしなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	補装具は、身体に障がいのある者や児童が、日常生活を送るために必要な用具であり、体の一部となるものである。新規に購入する者には、申請から納品にかかるまでの書類の流れや、特別仕様で製作する場合の納入期間などの説明、買い替えの場合は、不具合の状況や身体状況の変化など、聞き取りを行い、補装具を必要とする者に合った用具を選定し、適切な事務処理を行うことが必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題